

## 2019年度春季大会松野賞の受賞者決まる

2019年度春季大会において、松野賞候補者としてエントリーされた口頭発表およびポスター発表の候補者16名について審査・選考を行った結果、発表が特に優秀であった下記5名に松野賞を授与することに決定した。

**高須賀大輔**（東京大学大気海洋研究所，博士後期課程3年）

**発表題名：**MJOの発生・東進過程における混合ロスビー重力波の役割—YMC-Sumatra 2017 期間中の事例解析—

**選考理由：**マッデンジュリアン振動（MJO）駆動機構についてとくに混合ロスビー重力波の役割に着目し，YMC集中観測データ解析並びに数値モデルを併用した研究成果を発表した。着眼点の独創性と研究全体の完成度いずれにおいても一際優れており，またすべての質問に対して筋の通った明快な回答を行っていた点から，自身の研究に多角的で深い思考を重ねてきたことがわかる。

**星 一平**（新潟大学大学院自然科学研究科，博士後期課程3年）

**発表題名：**北極-中緯度気候リンクにおけるQBO位相依存性

**選考理由：**北極の海水減少時に中緯度ユーラシアの対流圏下層の低温偏差が先行研究により指摘

されているが，その偏差がQBOの東風位相の時に有意に強まることを示した。QBOの定義，月の依存性も丁寧に解析して，この関係がロバストであることを確認している。惑星規模伝播等成層圏過程がその結合の要因となりうることも議論した。発表は明確で質疑にも的確に答えていた。

**岩切友希**（東京大学大気海洋研究所，博士後期課程1年）

**発表題名：**完新世中期におけるENSOの弱化メカニズム

**選考理由：**異常気象をもたらす主要因の一つであるエルニーニョ・南方振動（ENSO）の複雑なメカニズムを，古気候の視点から解明すべく，全球結合モデルと自身の開発による簡易モデルを用いた研究である。ENSOの弱化メカニズムとENSOと季節サイクルの相互作用について明らかにした点が高い新規性を持っている。発表についても分かりやすい説明とスライドで，質疑応答にもきちんと対応していた。

**塚田大河**（北海道大学大学院環境科学院，修士課程2年）

**発表題名：**ひまわり8号を用いた台風内部コア領域の風速推定

**選考理由：**ひまわり8号の高時空間分解能観測を用い

て、台風の内部コアの運動を解析する方法を開発し、それを用いて、2017年の台風LAN（第21号）の眼内部の接線風速を求め、その運動の特徴を明らかにした。風速を求めるのに時空間スペクトル解析を用いるという独創的な方法で、接線風速の半径方向の分布を求めている。発表には工夫があり分かりやすく、よくまとまっていた。また、質問・コメントに対しても適切に回答をしていた。今後の課題もあるが、研究はまとまった段階に達している。

藤原圭太（九州大学大学院理学府，博士後期課程2年）  
発表題名：黒潮の潜熱フラックス増加実験でみられた

秋台風の発達抑制

選考理由：秋季に日本へ接近した2010年台風14号（Chaba）の発達に対し、台風から十分に離れた黒潮域からの水蒸気供給が寄与するという仮説を検証するため、高解像数値モデルを用いて海面の潜熱フラックスを人為的に調節した複数の感度実験を行い、黒潮からの水蒸気供給の重要性を明らかにした研究である。本講演では感度実験の一つについて結果を詳しく述べた。台風の発達に対し、水蒸気輸送の遠隔的な役割を単離して調べた興味深い研究であり新規性がある。ポスター講演時の発表はわかりやすく、質問にも丁寧に答えていた。